教育プログラム・コースの概要

大学名等	東京歯科大学大学院歯学研究科
教育プログラム・コース名	支持療法専門医養成コース/口腔ケア・摂食嚥下リハビリテーション・栄養療法分野（正規課程）
対象職種・分野	歯科医師・大学院歯学研究科博士課程大学院生
修業年限（期間）	４年
養成すべき人材像	口腔の専門家としての特性を生かし，主として食支援を目的としたがん医療の現場で活躍することのできる人材である．特にがん治療の支持療法として口腔機能の維持と障害の回復のために必要な口腔機能・衛生管理，摂食・嚥下リハビリテーションチームや栄養サポートチームへの参画，そして地域包括ケアシステムの中で終末期医療を含めたがん緩和の分野で連携しリーダーシップをとれる歯科医師を養成する．
修了要件・履修方法	専門医養成コースの履修要件 ・研修コース：東京歯科大学千葉歯科医療センター摂食嚥下リハビリテーション科，市川総合病院リハビリテーション科および歯科口腔外科研修 ・口腔がん、がん口腔支持療法インテンシブコースの修了（12か月） ・国内留学：国立がん研究センター中央病院（6か月） ・ポートフォリオの提出：評価シート，担当症例報告，関連セミナーへの参加 ・原著論文1編　または　臨床研究論文3編
履修科目等	大学院共通科目 ・必修科目(主科目)：主科目(講義等)，大学院共通講義Ⅰ（歯科専門分野），大学院セミナー ・選択科目：主科目以外の科目講義等，　大学院セミナー 主科目，選択科目をあわせて必修科目30単位以上を履修し，独創的研究に基づく学位論文を提出し，最終試験に合格すること．
がんに関する専門資格との連携	・口腔外科学会認定医・専門医（日本口腔外科学会）　・摂食機能療法専門医（日本老年歯科医学会）　・摂食嚥下リハビリテーション認定士（日本摂食嚥下リハビリテーション学会）　・口腔ケア認定士（日本口腔ケア学会）
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がんに関わる医科研修や多職種との連携活動を大学院教育に取り入れ，がん医療の現場で摂食嚥下機能障害をもつ患者，在宅医療，終末期医療におけるがん緩和に携わることのできる専門歯科医師を養成する点が独創的といえる．リハビリテーション科医師，言語聴覚士，理学療法士，作業療法士，栄養療法士を中心とした連携コースワークの設置，訪問歯科診療を通した食支援の研修を行い,がん治療に還元できる歯科医学の知識・技能・態度を涵養するための方略を作成した点が独創的といえる．
指導体制	東京歯科大学市川総合病院は東葛南部のがん診療連携拠点病院であり，がん診療に関わる診療科による横断的な指導体制が確立している．また，本学千葉歯科医療センターの摂食嚥下リハビリテーション科では訪問歯科診療がおこなわれ，多職種による指導体制が確立している．さらに国立がん研究センターでの研修協力体制も確立している．
修了者の進路・キャリアパス	学位取得後は，本学摂食嚥下リハビリテーション科，歯科口腔外科，あるいは病院歯科に勤務し，摂食・嚥下リハビリテーションチームや栄養サポートチームの中で活躍できる専門歯科医師としてさらに研鑽を積む．そして将来はこの分野を牽引する歯科医師として学際的活動が行える人材となることを期待する．
受入開始時期	令和６年４月

受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	2	2	2	2	2	10

受入目標人数設定の考え方・根拠	本学は2020年に病院歯科医師を養成する専門講座（オーラルメディシン・病院歯科学講座）を設置し，歯学における多職種連携，チーム医療に特化した人材育成を進めている．現在，摂食嚥下リハビリテーションや口腔ケアを専門とする歯科医師の需要が高まっていることから，これまでの進路調査の結果も鑑み,さらに人材増を図るため目標受け入れ人数を2名/年，計10名に設定した．

履修者数 ※当該年度に「新たに」入学した人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	1	0					0